



道

奥

山

美

紀

子

May

著者

奥山美紀子

1952年 熊本県に生まれる

1992年から詩誌「COSMOS」を発行

日本中央文学会「中央文学」同人

著書

1988年 詩集「銀色の電車」

1991年 詩集「哲学の朝」

1995年 詩集「距離」

詩集
道

発行 〓 一九九六年九月八日

著者 〓 奥山美紀子

発行所 〓 コスモス編集室

熊本県熊本市長嶺町一六八四一〇四

郵便番号 八六二

電話番号 〇九六(三三八〇)一〇八二

印刷 〓 坂本印刷所

定価 〓 二五〇〇円

目次

ロザリオ	28								
白い雲	26								
十字の花	24								
		*							
手をふって	20								
パンセ	18								
翼	17								
愛	16								
仕事	14								
道	12								
太郎	11								
希望の家	8								

語ることば
36

風景
32

家
34

煙
35

*

ライオン
38

人間の味
40

神へ
42

街
44

歩く
46

天のキャンバス
48

*

渡る 50

不自由 52

悪魔の花 54

天地の真ん中 56

神さまのつばみ 58

鍵のない部屋 60

メロディ 62

無原罪のマリア 64

*

虫の夏 68

目を上げて 76

生活 72

召命 74

マリアのしずく 76

蜂 78

天幕の下 80

宙へ 82

あとがき 85

道

希望の家

希望はどこに住んでいるのだろう

希望は相談相手にならなくて

ただそこへ向かうしかない

垣根の隙間に

ひとが見え隠れするように

希望は

時計の針の陰を見え隠れする

ときに

空中ブランコのように

すぐそばにやってきては

さっと 向こうへ行ってしまうこともある

希望は軽く丈夫で

私を離さない

希望はやさしく叱り上手で

私をふりかえる

ときに希望は

美しくうつむいて

私から視線をそらす

希望はどこに住んでいるのだろう

希望は相談相手にならなくて
ただそこへ向かうしかない

太郎

太郎の思いは揺れている

厚く薄く 風車かまぐるまのように回りながら

真昼に月を見るように

キロキロ

かわいた風車

太郎の胸を押してくる

太郎の夢を押してくる

道

音もなく

紙すらも 切れてしまうほどの
こころの美しさがあれば

風を透き

空まで はためてしまうほどの
澄んだ眼差しがあれば

そして 荷を忘れ

愛も 形を崩してしまうほどの
ひとつきりの道があれば

仕事

忘れないでね。

振り向きざまに　そう言われると

心は

飛び立つ鳥のように

急に賑やかになる

忘れるはずがない。

そう背中に言ってしまうと